

# X 線

( 復刻版 )

VOL.1 (1940年)  
~ VOL.9 (1956年)

X 線懇談会発行  
( 日本結晶学会復刻 )  
( 理学電機(株)協賛 )  
2002年3月

# 「X線」の復刻にあたって

今回、X線懇談会の機関誌であった「X線」を復刻することとなりました。そもそものきっかけは、結晶学会の「創立50周年記念号(Vol.42 No3. 2000)」でした。50周年記念号WGのもと、長い期間どのような記念号を作るかが話し合われました。そのなかで、「日本結晶学会の歴史を読む」という第1部の製作がきまり、結晶学会の初期の資料を大崎健次先生に提供していただきました。そこで初めて知ったのですが、日本結晶学会は最初の10年は独自の学会誌を持っておらず、「X線」のなかに間借りをしていた時代が長くありました。それだけでなく、日本結晶学会の設立の前後や日本学術会議結晶学研究連絡委員会の設立とその活動などについては、唯一現存している資料がこの「X線」でした。最初はいくつかのページのコピーをいただいて、それを元に原稿を書きました。そのうちに、「X線」の表紙が必要となり、本物を送っていただきました。それはそれはボロボロの雑誌で今にも崩れそうなものでした。

「X線」は大阪帝国大学の仁田研究室が中心となったX線懇談会の機関誌として昭和15年から発行されています。戦争中から戦後まもなくの昭和31年までの発行でした。このような時代の印刷ですから、酸性紙特有の問題が起っています。何もこの雑誌だけに限ったわけではありませんが、いわゆるslow burningがおこっていて、紙の色は茶色に焼けてボロボロになっています。コピーをとろうとしても、よほど注意しないと紙をいためるし、自動でコピーをとれば真っ黒にしか写りません。そもそも、雑誌として存在しえるのはあと10年なのかどうか分からない状態です。このことを大崎先生は大変愁いておられ、「日本結晶学会でなんとかならないか」とたずねられました。このことは、50周年記念号の「さいごに」という中でも取り上げています。そこで、50周年記念の仙台の年会の実行委員長をしていたこともあり、理学電機に「X線」をCD-ROMに復刻して年会参加者に配りたいので協力してもらえないかと相談をもちかけました。ちょうど理学電機も次の年に50周年を迎えることもあり、よろこんで協力したいとの返事をいただきました。しかしながら、我々年会の実行委員会の人手不足でこの計画は実現しませんでした。乗りかかった船ですので、その後も日本結晶学会の評議員会で「X線」復刻の事業を続けたいとお願いをして、今回やっと実現にこぎつけることが出来ました。多数の関係者の方々にお礼申し上げます。とくに、この事業の全ての費用は理学電機の御協力によるものでした。この「X線」の記事の中には理学電機の創立時代の広告も多数載っており、会社としても貴重なものであろうと想像できますが、日本のX線結晶学の一級の資料を保存する文化活動に御理解を示していただいたことには頭の下がるおもいです。「X線」の記事内容そのものの現在の価値はどの程度あるかは何とも申し上げられませんが、その歴史的科学的価値は疑いもなく貴重なものです。今回の復刻は、CD-ROMと復刻版の本5冊とし、日本結晶学会事務局と国会図書館、理学電機、大崎先生、野田研究室にて保管することとなりました。CD-ROMは日本結晶学会会員の希望者には実費で配付される予定です。希望される方は日本結晶学会事務局に御連絡下さい。

最後に、この復刻の作業にあたった野田研究室の学生の方々（鬼柳亮嗣、望月桂介）と助手の渡邊真史君にはその努力に感謝します。

（記 野田幸男 2002年3月）